

2019 年度

美術学部

芸術学科

英語

- 1 美術における古典性 “Classical” に関する一般的な定義に関する文章です。理想主義的で人物中心であった古代ギリシャに対して、空間的環境の描写を重視するリアリスティックな古代ローマ美術の古典性という相違を正しく理解することが求められています。idealistic, realistic, abstract, expressionistic といった様式の基礎概念がどのような論理的な枠組みで捉えられているかがひとつのポイントになります。
- 2 観察または想像されたものを、堅固な素材を用いて三次元的に再現するものという彫刻の定義から、彫刻作品と非・芸術的な物との違いを述べた文章です。彫刻には、特に芸術家による独特な素材の扱いかたという点で非・芸術的な物との違いがあり、それによって作品は特定の文化的対象となり、アートワールドに属するものとなります。内容そのものには特別に難しい点はありませんが、それを理解するためには、which, who, that, where といった、頻繁に用いられている関係詞に注意し、主語と述語の関係を正確に読みとる必要があります。

仏語

- 1 有用なものを作る技術と、美しい技としての美術との間に明確な区別があるわけではなく、もっぱら有用性や耐久性、機能性を追求した職人の作品や工業製品が、結果として美しさを持つことがあり得るといった内容の文章です。挿入句が多いといった特徴のある文体が用いられていることや、抽象的な語彙が用いられていることにより、読みにくく感じられるかもしれませんが、finir par や en vue de といった言い回しや、前置詞や形容詞、関係詞が文の中でどのように機能しているかという点に十分な注意を払うことによって内容を理解することができます。
- 2 問題文の冒頭にあるように、全体としては芸術をめぐる「ほとんど執拗なまでの対立 contradictions presque obsédantes」をつぎつぎに並べた文章です。したがって、まずはそれらの「対立」を明確に訳出してゆくことが求められます。

この対立はまず問題文の前半では、芸術作品の性質をめぐる対立として説明されます。そして第 4 文で（冒頭「最後に Enfin」とある）この作品それ自体の性質をめぐる対立の説明は終わり、第 5 文から最後の第 7 文までは、作品をめぐる人々のみつつの類型、すなわち研究者、作者、そして愛好家が挙げられ、それぞれの姿勢が説明されてゆきます。文法面では「芸術作品 l'œuvre d'art」を受ける代名詞の la が頻出するので、これを見落とさず、また定冠詞の la と混同しないよう注意することが必要です。

地理歴史（日本史）

問題 1 正確な知識に基づきながら、キリスト教の受容史を仏教と比較して論述する問題です。まず、関連する事件を時系列にそって整理して提示することと、論点を明示しながら歴史的な背景や意味を捉えて歴史の流れを大づかみに論述することを求めています。解答の要点は下記のとおりですが、「受容」の解釈や論点設定の仕方により多様な論述が可能です。

538年または552年に朝鮮三国の百済より伝来した仏教は、7世紀後半から8世紀にかけて新羅や唐からの影響を受けながら積極的に受容された。中央集権化の過程で鎮護国家を目的として国教化し、律令制度の整備とともに国家統制を受けた。8世紀中葉には国分寺・国分尼寺の制度や大仏造頭などの国家仏教政策が展開された。その一方、仏教と在来信仰との習合現象も顕在化し、仏教の日本的な受容も進展していった。

これに対し、1549年にカトリック教会の修道会、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルにより伝来したキリスト教は、16世紀後半から17世紀初頭にかけての戦国大名の群雄割拠から織田信長・豊臣秀吉による天下統一への過程で受容された。当初、南蛮貿易と結びつきながら受容され、九州地方にはキリシタン大名もあらわれた。秀吉により統一政権が成立すると、西欧諸国による布教の背景にあった植民地主義との矛盾が先鋭化し、弾圧が繰り返され、次第に禁教へと舵が切られた。1613年には江戸幕府により全国禁教令が出され、1641年には鎖国が完成した。禁教策は1637年の島原の乱を契機にさらに強まり、寺請制度を設けて宗門改めが実施された。幕府の迫害を免れた信徒は潜伏キリシタンとしてわずかに信仰を守った。明治維新後も新政府は禁教令を継承したが、西欧諸国からの強い批判を受け、1873年にこれを撤廃した。潜伏キリシタンの多くはカトリックに復帰したが、復帰を拒んで日本の民俗信仰と習合した潜伏期の信仰を継承する信徒（カクレキリシタン）もあった。

問題 2 問題 2 は日本史に関する重要語句（人名、事項など）の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

(1) 参勤交代

徳川幕府による幕藩体制を支えた大名統制の施策の一つ。三代将軍家光が改訂した武家諸法度（寛永令、1635年）で明文化されたこと。大名に一年交互の江戸在府・在国を命じ、妻子は江戸居住としたことが、まず基本内容として問われます。のちの享保の改革、文久の改革時に若干の緩和があったその後の経緯や、他の大名統制の施策（改易・減封・転封）への言及。あるいは参勤交代による藩財政の悪化、江戸の都市化、街道筋の整備、物流経済の発達など、直接間接の影響への理解と言及も評価されます。

(2) 西行

12世紀の歌人として知られる西行について、武家として、僧侶としての側面にも留意しつつその人物像を記述し、またそれを通して当時の文化に関して述べることを求

めています。芭蕉や宗祇など、後世における影響についても触れることができればなお良いと考えます。

(3) 東京オリンピック

1964年東京で開催されたアジア初のオリンピック。高度経済成長を背景に、日本の戦後復興を世界に示したこと。開催に向けて高速道路、新幹線などのインフラ整備が進められ、それ自体が経済成長を牽引したこと等。開催の意義や目的を、当時の時代と社会の文脈から捉える問題です。戦時下で中止となった1940年の東京オリンピックを、民主化された戦後日本で、スポーツによる“平和の祭典”として開催する意義への言及は高評価です。体操、バレーボール、マラソンなどでの日本選手の活躍、2020年東京オリンピックへの言及なども可能です。

(4) 白鳳文化

古代の文化史に関する設問です。白鳳文化の時期、担い手、特徴、美術・文学の作品などが基礎知識として要求されます。

これに加えて、次の論点に関する適切な言及があれば、評価対象とします。

① 中国・朝鮮半島との関係

② 律令国家の成立と仏教・仏教文化との関係

キーワードは、次のとおりです。

時 期：7世紀後半から8世紀初頭

外 交：唐（初唐）、統一新羅、白村江の戦い、遣唐使

作品名：興福寺仏頭、法隆寺金堂壁画、高松塚古墳壁画、キトラ古墳壁画、
『懐風藻』、『万葉集』

人 名：天武天皇、大津皇子、柿本人麻呂、額田王

その他：律令国家、国家仏教、大官大寺、薬師寺、官立の大寺院、護国経典、
仏教の統制

地理歴史（世界史）

問題1 問題1は世界史に関する重要なできごとについて、複数の用語や人名などを含めながら総合的に論じる能力をみる問題です。したがってばらばらに関連する事項や事実を列挙するのではなく、それらを論理的に構成し、ひとつのまとまった文章にすることが必要です。

ここで問うているのはベトナム戦争とその文化的意義です。1960年代から70年代はじめにかけて戦われたこの戦争には、ベトナムのほかアメリカをはじめいくつもの国が関わっていました。したがって解答の大筋としては、まず背景となった当時の国際情勢を整理しつつ（旧宗主国フランスからアメリカへの支配体制の移行、親中ソの北ベトナム対アメリカが支持する南ベトナムという共産主義と資本主義の対立構造、ドミノ理論の影響）、戦争の経緯を説明し（トンキン湾事件、北爆、ベトコンによるゲリラ戦）、文化史への影響の話題につなげてゆく（ラ

ジオやテレビによる戦況の世界的な拡散、反戦運動と同時代の学生運動やカウンター・カルチャーとの連動)、という流れになります。

問題 2 問題 2 は世界史に関する重要語句 (人名、事項など) の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

(1) 唐詩

中国・唐時代の文芸を代表する詩のこと。背景、代表的な詩人と時代ごとの展開、後代や他国への影響等について記述することが望ましいと思われます。背景としては、科挙において詩賦が重んじられたことによって詩作が盛んとなったこと。代表的な詩人と展開としては、盛唐期に李白、杜甫、つづいて白居易が活躍したこと等。唐代中期以後には形式的な貴族趣味を脱し、韓愈や柳宗元が古文復興を目指したこと等。影響としては、日本の平安文学や後の宋学へも影響を与えたこと等となります。そのほか律詩と絶句を特徴とすることや、各詩人の作品や作風等について言及することも評価対象となります。

(2) マルティン・ルター

16 世紀ドイツの神学者で、宗教改革を推し進めた指導者。まず、左記のような基本的な歴史的立場と業績内容をおさえてください。さらに、ヴィッテンベルク大学の神学教授であったこと、ローマ・カトリック教会の墮落を批判して「95 箇条の論題」(1517 年) 掲げたエピソードにはふれてほしいところです。思想内容としては、単にカトリック教会の贖宥状販売に対する批判だけでなく、信仰義認説や万人祭司主義などの神学思想も挙げられることが望ましいです。ザクセン選帝侯の庇護を受けたこと、聖書のドイツ語訳を行なって一般民衆が聖典を読めるようにしたこと等に言及するのも、評価対象となります。

(3) 鄭和

中国・明時代の永楽帝のもとで活躍した人物。背景としての永楽帝期の対外政策、出自、南海諸国遠征 (大遠征) とその影響等について記述することが望ましいと思われます。永楽帝はモンゴル遠征やベトナムの一時占領など、権威を高めるための積極的な対外政策をとり、鄭和の南海諸国遠征はその一環であること等。出自がイスラーム教徒の宦官であること。7 回に及んだ遠征はインド洋からアフリカ沿岸にまで及び、南海諸国の朝貢を勧誘したこと。影響としては、明に東南アジアやインド洋沿岸地域の情報をもたらし、南洋諸国からの朝貢貿易が盛んとなったこと等。鄭和の遠征の終了により中国とインド洋諸港の直結ルートはとだえたものの、経由地とされたマラッカ王国が引き続き対明貿易で栄えたこと、華僑進出の契機となったこと等。そのほかキリンなどの珍奇な動物が明にもたらされたこと、「宝船」と呼ばれたこと等について

て触れることも評価対象となります。

(4) ジグムント・フロイト

19世紀から20世紀にかけて活動したオーストリアの精神病理学者。精神疾患の治療にたずさわるなかで、人間の心のなかに「無意識（潜在意識）」の領域を見出し、精神分析学を創始した。思想の特徴として、無意識の領域に潜む抑圧された性的欲動を重視し、それを人間の心的生活を左右する根本的要因と特定した点が挙げられます。主著として『夢判断』『精神分析入門』などに言及できるとよいです。さらに、ユングなどの後続の心理学者への影響、芸術におけるシュルレアリスムへの影響（エルンスト、ダリなど）について記述することも評価対象となります。

小論文

問題 鏡を使用した自画像や、作品中に表されたモチーフとしての鏡について論じてみるのもいいでしょう。具体的な作品を挙げて論じるかどうかは自由ですが、挙げる場合には、ゴッホの《自画像》、ヤン・ファン・エイクの《アルノルフィーニ夫妻像》、ベラスケスの《ラス・メニーナス》あるいは古代の銅鏡のような工芸作品などがすぐに思い浮かぶかもしれません。あるいは、鏡に映されたものが現実世界の表象であるとするなら、絵画作品もまた作家の心象世界を映し出した鏡であると捉えて比較してみることも面白い議論になりそうです。ただし、鏡を用いた作品を数多く列挙したり、作品について長々と記述してしまうと、概略的な説明に終始し内容が散漫になるおそれがあります。論点を整理して、自分の意見を述べるのが望ましく思われます。

鉛筆素描（石膏像）

問題 今回の鉛筆素描では、代表的な石膏像のなかから、古代のヴィーナス首像（通称「パルテノンのヴィーナス」）が出題されました。これを、3時間で画用紙に鉛筆で素描します。出題の意図としては、石膏像の素描を通じて、対象の形態および明暗の調子の観察と再現、構図の取り方などの、基礎的な造形表現力を評価するための試験です。限られた時間で的確に石膏像を描写するためには一定の視覚的・造形的訓練が必要ですが、そうした能力を身につけることは、芸術学科の専門領域である美学・美術史の学習・研究にとっても貴重な素養となるのです。